



特集

安定財源でも借金増やす

奈良越前市長の落日

4期目も終盤となり、市民の奈良越前市長への不満、不信は爆発寸前！コロナ終息と時を同じくして奈良市政は終焉

労組票に 胡坐かき15年

奈良俊幸越前市長4期目最後の1年がスタートする。武生中央公園も整備され、今年1月新庁舎開庁。奈良市長が「半世紀に一度のまちづくり」と豪語した大型事業は、北陸新幹線南越駅(仮称)周辺整備を残すだけとなり、新幹線開業まで3年を切ったが、市民は今一つ盛り上がらない。越前市の合併初代市長に就任した奈良市長に市民は期待を寄せたが、合併協定時の5年後を目途に新庁舎建設という約束を先送り。「多くの市民の意見を聞く」と〇〇委員会を次々と立上げ、議論に議論を重ね報告書を提出させる。その繰り返し。市民は奈良市長の「市民の意見を聞く」という手法には表立って何も言えない。何も進まないのに批判されることもない、安定感のある奈良市政とも言えた。

ようやく新庁舎の設計図が公表されるまでに有に10年の歳月を要した。同時に、複合施設「あいぱーく今立」、武生中央公園体育館の改修工事。加えて同公園の再整備と建設ラッシュが続く。こうなると現職は強い。関連業者が次々と市長室の前に列を成し、お願い詣で。4期目も多選批判もなく有力な対抗馬も現れず、余裕の再選を果たす。

しかし巷では、馴れ合い行政に不満や不信続出。市長選1年も前にして4年前と同様、「もう結構!」「もう充分」との声があがっていて、奈良市長に対する不満は爆発寸前だが、今のところ有力対抗馬は見当たらず、また無投票か、奈良市長続投かと絶望感が高まる一方で、リーダーシップのある新市長を誕生させ活きとした未来あるまちづくりを進めないと越前市は停滞の一途を辿ると危惧する市民は多い。